

京都大学	博士（社会健康医学）	氏 名	横 山 葉 子
論文題目	Impact of Early Referral to Nephrologist on Mental Health among Hemodialysis Patients: A Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study (DOPPS) (腎専門医への早期紹介は血液透析患者の Mental Health と関連する)		
(論文内容の要旨)			
【背景】慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease：以下 CKD）患者は、透析導入直前まで自覚症状が乏しく、疾患の早期発見・早期治療には医療者側の適切な介入が重要となる。腎専門医への早期紹介は、透析導入までの期間の延長や透析導入後の生命予後にも関連していることが指摘されている。透析患者においては、うつの有病割合も高く、精神的健康度も重要なアウトカムのひとつであるが、腎専門医への早期紹介と透析導入後の患者の精神的健康度との関連は十分な検討が行われていない。 【目的】本研究では、CKD 患者の腎専門医への紹介時期と、透析導入後の患者の精神的健康度との関連を明らかにすることを目的とする。 【方法】血液透析の診療パターンと患者予後の関連性を研究する、国際的な前向きコホート研究である DOPPS（Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study）の日本のデータ（1999-2001 年）を用いて解析を行った。本研究での解析対象者は透析導入 2 年以内の患者 552 名である。要因は腎専門医への紹介時期とし、透析導入 4 ヶ月以内に受診した群を透析直前紹介群、4 ヶ月以上前に受診した群を早期紹介群と定義した。アウトカムは精神的健康度とし、SF36（Short-Form Health Survey）の Mental Health（以下 MH）を用いて測定した。解析方法は、共分散分析により透析直前紹介群と早期紹介群の MH スコアの平均値の差を比較した。調整要因は、性、年齢、糖尿病の有無、透析歴、とした。加えて透析歴・年齢によるサブグループ解析を行った。 【結果】解析対象者 552 名のうち、透析直前紹介群は 189 名（34.2%）であった。透析直前紹介群と早期紹介群の透析導入後の MH スコアの差は-5.59（95%CI：-9.38- -1.80）であり、調整要因を考慮した解析においても統計学的に有意な差がみられた（p=0.01）。透析歴（0-6 ヶ月、6-12 ヶ月、12-18 ヶ月、18-24 ヶ月）と年齢（65 歳未満、65 歳以上）のサブグループ解析の結果、いずれのサブグループにおいても主解析と同様、透析直前紹介群は早期紹介群と比較して MH スコアが低い傾向がみられた。特に、透析歴 6-12 ヶ月・12-18 ヶ月のサブグループ、65 歳以下のサブグループでは統計学的な有意差が認められた。透析歴のサブグループにおいては、透析導入直後（0-6 ヶ月）および透析導入後 1 年半以上経過したサブグループで統計学的な有意差は認められなかった。 【考察】本研究は、CKD 患者を透析導入直前まで腎専門医に紹介しないことが、透析導入後の患者の低い精神的健康度と関連していることを明らかにした。その差は全体で約 5 ポイント、透析歴のサブグループによっては約 10 ポイントであり、臨床的および社会的に意義のある差であると考えられた。 【結論】本研究では、腎専門医への早期紹介により透析導入後の精神的健康度が改善される可能性を示唆した。CKD 患者に対して腎専門医に早期紹介を可能にするための診療連携体制の構築が重要であると考えられた。			

(論文審査の結果の要旨) 慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease：以下 CKD）患者は、透析導入直前まで自覚症状が乏しく、疾患の早期発見・早期治療には医療者側の適切な介入が重要となる。腎専門医への早期紹介は、透析導入までの期間の延長や透析導入後の生命予後にも関連していることが指摘されている。本研究は、CKD 患者の腎専門医への紹介時期の実態と、透析導入後の患者の精神的健康度との関連を明らかにすることを目的としている。日本全国から無作為に抽出した透析導入後 2 年以内の患者（N=552）を対象とした疫学的検討の結果、透析導入直前に腎専門医へ紹介された患者は、34.2%（189 名）であり、早期（透析導入から 4 ヶ月以上前）に腎専門医を紹介された患者の透析導入後の精神的健康度（Mental Health スコア）は、早期に紹介されなかった患者と比べて 5.59（95%CI：1.80-9.38）ポイント高いことが示された。透析歴のサブグループ解析の結果では、早期に紹介された患者で 9.7 ポイント高く（effect size 0.39）、臨床的に意義のある差であることを示している。以上の研究は、CKD 患者の診療と透析導入後の精神的健康度との関連の解明に貢献し、透析患者や CKD 患者の診療プロセスの改善に寄与するところが多い。 したがって、本論文は博士（社会健康医学）の学位論文として価値あるものと認める。 なお、本学位授与申請者は、平成 2 2 年 8 月 2 日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。			
要旨公開可能日： 年 月 日 以降			